

拠点形成研究交流報告：5 大学フォーラム開催報告

2017年9月23日(土)に「食の安全・安心」を教育研究の基盤とした全国5大学の研究センター(神戸大学 食の安全・安心科学センター、岩手大学 動物医学食品安全教育研究センター、東京大学 食の安全研究センター、大阪府立大学 食品安全科学研究センター、東北大学 食と農免疫国際教育研究センター)が一同に会した第7回共同フォーラムを青葉山コモンズ大講義室で開催しました。このフォーラムは、昨今の食に纏わるさまざまな問題(BSE、腸管出血性大腸菌 O157、産地偽装、期限切れ食品の使用、輸入食品の農薬違反事例など)に直面し、「我が国の食の安全・安心に資する科学技術の創出・人材育成を相乗的に推進する」ことを目的として、2011年の共同フォーラム開催以降、前述の5大学のセンターが毎年個性的なテーマを設定し議論を重ねてきたものです。

今年共同フォーラムは、東北大学「知のフォーラム」特別企画として開催する「食の新技术の社会実装」と連携して開催され、そのテーマは「食の安全研究ホットトピックス」を掲げ、微生物・自然毒による食中毒の現状と対策、食中毒の原因となりうる農薬・食品添加物等の胎児や子供への影響、人のこれまでの長い食経験からその安全性が広く認識されている食品の多糖類やプロバイオティクス微生物製剤の炎症抑制効果など、幅広い観点からの講演がなされました。

今年共同フォーラムには大学研究者、学生、一般の方約60名が農学部新キャンパスに集合し、講演後は活発な議論が行われました。一般の参加者からの質問は普段研究者が気付かないような視点からの疑問も含めいくつが出され、活発な質疑応答がなされました。

また、研究者同士の情報交換も今回の共同フォーラムにおいて深まり、今後の共同研究への発展が期待されました。



講演風景



演者 & FAIN メンバー集合写真



総合討論風景



各センター担当者間の打ち合わせ